

湿地であそぼう！

「湿地」とひとことと言っても、山から海まで、川・湿原・湖・池・水田・水路・海岸など様々な環境があります。その場所を湿地だと認識していなくても、誰もが一度は訪れたことがあるのではないのでしょうか。お花や野鳥の観察に行ったり、カヌーやキャンプなどをして行ったり、お散歩やランニングのコースが湿地の周りにあるかもしれません。

今回は、湿地で自然観察をするときの服装や持ち物、湿地の回りで活動するときのマナーなどについてご紹介します。

自然観察に適した服装や装備

虫刺されやダニ対策のため、夏でも長袖・長ズボンを着ることをおすすめします。薄手の上着やウィンドブレーカーを持ち歩き、気温や風の変化に応じて服装を調整できるようにしましょう。靴については、木道などが整備されている場所では運動靴やスニーカー、登山道やぬかるんだ場所を歩く場合は登山靴やトレッキングシューズ、長靴などを履くのがおすすめです。調査などのために本格的に湿原に入る場合は、腰や胸の高さまである胴付き長靴（ウェーダー）を履いたり、ドライスーツを着たりすることもあります。湿地には、樹木があまりなく日陰が少ない場所もあります。日差しを遮るために帽子をかぶったり、水筒を持ち歩いてこまめに水分補給したりするようにしましょう。

あと便利な物としては、双眼鏡や図鑑、カメラやノートなどが挙げられます。双眼鏡を使うと野鳥などを遠くからでも観察でき、図鑑があれば動植物の名前や特徴をその場で調べることができます。観察したものをカメラやノートを使って記録しておく、それらについて後からさらに詳しく調べることができます。



湿地へ行くときに気を付けること

野生の動植物には、勝手に採取してはいけないものがあります。許可なく植物を抜いたり、お花を摘んだり、魚や昆虫を採ることはしないようにしましょう。また、湿地の保全や危険防止のため、道から外れた場所には入らないようにしましょう。木道から筆記用具などを落とさないように気をつけたり、帽子が風で飛ばされないように工夫したりすることも大切です。湿原にゴミを捨てるのは厳禁です。環境にも良くないですし、綺麗な自然の中にゴミが落ちているのを見て良い気分になる人はいないと思います。ゴミは必ず持ち帰りましょう。美しい自然を今後もずっと楽しめるように「とって良いのは写真だけ、残して良いのは足跡だけ」を守りましょう！

2020年度 合同探索会

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワークでは、当ネットワーク正会員団体がホームグラウンドにしておらず、市民団体による保全・再生の対象になっていない湿地に注目し、それらを探索・見学する合同探索会を、結成以来毎年2〜3回ずつ開催してきました。

7月19日に開催された2020年度第1回目の合同探索会は、当別町蔵岱にある2か所の原野を対象とし、約25名が参加しました。この地域は石狩大湿原を構成していた湿原の一つ・篠津湿原の最南端にあたり、その名残の原野が随所に散在しています。

1か所目はササに覆われた原野で、ササが膝丈以下に低くなっている一角に、本来ならば安定したポグ（ミズゴケが優勢で天水で湿気が保たれている湿原）に見られるマンネンスギが散在し、一か所だけミズゴケのクッションが残っていました。マンネンスギの根元にミズゴケが無いこと、泥炭採掘跡地に特有な大きな起伏が見られないことから、この原野では泥炭採掘よりもミズゴケの盗掘が横行していたとみられます。

2か所目は深い泥炭採掘跡が随所にある原野で、採掘跡の窪地の底には水がたまり、ヨシ、ミズゴケ、ヤチヤナギ、モウセンゴケなどの湿原の植物が数多く見られました。地権者の意向でソーラーパネル設置が計画されている場所で、石狩平野の残存湿原が置かれている状況を改めて深く考えさせられるひと時となりました。

後日談 ソーラー発電工事をを行う(株)エコスタイルさんとお話した結果、施工性の問題等もあり、発電設備の設置位置を調整してくれ、湿地の核心部は保全されました。



当別町蔵岱湿地



モウセンゴケなどを観察できました



しめっち 今後の予定

- ・しめっちカフェ
ゲスト：根室市歴史と自然の資料館 学芸員 外山雅大さん 11月13日(金)
- ・しめっち恵み体験 ～ア縄づくり～ 12月19日(土)
- ・しめっちフォーラム 2021年2月6日(土)

湿地体験会も行う予定です！行事について日時が決まり次第、お知らせします！



しめっちカフェにて

湿地 トリビア マガン

北海道では春と秋に見られる渡り鳥。美幌市の宮島沼には最大7万羽を超える群れが集結します。かつては全国各地に飛来していましたが、生息地の開発と乱獲によって一時は絶滅が心配されるほど減少し、1971年に国の天然記念物に指定されました。道内でも開拓前は各地に飛来していたと考えられ、アイヌにはサケの豊漁をもたらす鳥、ガマ刈りの時期に飛び立つ鳥などとして知られていました。アイヌ語で雁はクイトブ、クサフジは葉や花を雁の隊列に見立てクイトブキナと呼びます。マガンが数を減らした1960年前後は道内でも分布が限られ、石狩湾の望来沖でねぐらを取り、日中は当別町の水田で採餌していましたが、1978年から宮島沼にねぐらを移しました。1980年代から全国的に増加し始め、2000年前後から道内でも十勝川下流やサロベツ原野に分布を拡大しました。現在道内ではマガンの合同調査を実施しており、15万羽以上のマガンが北海道を通過しているとされます。



しめっち 会員紹介 宮島沼の会



マガンカウント中！

宮島沼は、石狩川のほとりにある小さな沼です。ここは、マガンの国内最大最北の寄留地であり、毎年春と秋に数万羽が訪れます。2002年11月、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されました。宮島沼の会は、ラムサール条約に登録された翌年に発足した、宮島沼の保全とワイズユース（賢明な利用）を進める市民団体です。自然や農業のことなどを幅広く学び、楽しみながら様々な活動を実践し、宮島沼の自然を次世代に確実に引き継ぐことを目的としています。宮島沼の会の活動の様子は、こちらをご覧ください。

MIYATOMO ～宮島沼・水鳥・地域の応援団～
<https://miyajimanuma.wixsite.com/miyatomo>

